



---

## ビル・ゲイツ ポリオに関する講演 (ロータリー国際協議会での講演)

2009年1月21日

---

ジョン、ありがとう。そして、こんなにも温かく迎えてくださった皆さん、ありがとうございます。ゲイツ財団がロータリアンとともに、ポリオとの闘いに加わることができ、とても嬉しく思っています。

それで、このロータリーの帽子をかぶりました。

今日は、世界に33,000以上あるロータリークラブを指導していかれる皆さんを前にお話できる機会をいただき、誠に光栄です。

まず、妻メリンダの叔母にあたるミラの話から始めさせていただきます。私たち夫婦がこの叔母に会うのは、年に数回です。叔母は、デルタ航空で予約係として長年働いていました。ニューオーリンズに住んでいましたが、ハリケーン「カトリーナ」の後は、メリンダの故郷、ダラスに移りました。子供好きのミラは、我が家に来ると、いつも床の上に座り込み、子供たちとゲームをして遊んでくれます。このミラ叔母さんは、子供のころポリオを患いました。彼女は、幼いころから今もずっとギブスをはめたままです。

[間]

うちの子供たちはポリオがどういう病気なのかを知っていますが、それは、この叔母の存在があるからです。ミラがいなかったら、ポリオは学校で習う歴史上の事実でしかありえなかったでしょう。

私は、アメリカでポリオが大流行してからわずか3年後に生まれましたが、子供のころポリオにかかっていたという友人は一人もいませんでした。ポリオは、それほど遠い昔のこととなりました。

アメリカ合衆国だけでなく、ボリビア、ベトナム、クロアチア、モロッコなど、同じようにポリオの駆逐に成功した国が、次々と生まれました。

皆さんの懸命な努力のおかげで、ポリオは、過去20年間で99パーセント減少しました。1988年のポリオ感染者数は35万人でしたが、この数は、2008年にはわずか数千人に減りました。

これは驚異的な数字であり、世界の保健分野全体の飛躍的な進歩の一端を物語るものです。

保健に関する世界の統計で、私が一番好きなものをご紹介します。1960年には、2,000万人の子供が死亡しています。この数字は、2年前には1,000万にまで減りました。つまり、私の半生で、世界は年間1,000万人の子供の命を救う方法を見つけ出したのです。

これは、過去50年間で最も偉大な人道的功績と言えるでしょう。単純なものから複雑なものまで、革新的なアイデアの数々がもたらした結果です。新生児の体温の安定を保つ毛糸の帽子から最新のワクチンまで、新しいアイデアで命を救うことができるのです。

しかし、必要としている人々にこのようなアイデアを確実に届けてくれるロータリーのような素晴らしい組織の活動なしには、これは実現しません。

これまでロータリーは、ポリオとの闘いのために8億ドルを集めてきました。また、ロータリーがポリオを世界の最優先事項として掲げてきたことも、重要な事実です。世界保健機関、ユニセフ、米国疾病対策センターとともに、皆さんは何百万人も感染拡大に歯止めをかけてきました。そして、100万人余りの命を救ってこられたのです。ロータリーの存在なしに、世界は、ポリオの感染が99パーセント減少した現在の状況にたどり着くことはできなかったでしょう。

ゲイツ財団は、10年前に初めてポリオとの闘いに寄付を行いました。ポリオ撲滅に2,500万ドルを寄付したテッド・ターナー氏から、私は次のように言われたのです。君は私の倍金持ちなのだから、2倍の寄付をすべきだ、と。これは、とても説得力がありましたから、メリンダと私は彼の言葉に従いました。

ですから、私たちがこの活動を始めたのは比較的最近のことで、まだ10年ほどです。しかし、皆さんは長い間、募金活動を続けてこられました。そして、何十億人もの子供たちに予防接種を行ってこられました。闘いに初めから参加した皆さんは、最後の最後まで闘い抜くに違いありません。だからこそ、ゲイツ財団は皆さんの新しいパートナーとなれたことを本当に嬉しく思っているのです。ロータリーがかかわっているからこそ、私たちは迷うことなくこのような巨額の投資が行えるのです。この闘いが終わりを迎えるとき、私たちは必ず皆さんとともに勝利を祝います。

[間]

しかし、先ほどのボブ・スコット氏のお話にあったとおり、皆さまも現在の実情についてはご存知のことと思います。ここ数年間は、ポリオ撲滅にとって試練の時期でした。それは事実です。今年こそはポリオを撲滅する、という言葉で、私たちは何度か耳にしてきました。よし、ゴールは近いぞと皆が胸を高鳴らせているときに、やっぱり時間と資金がもっと必要だと告げられるのです。これはもどかしいと言いがありません。

ですから、ここではっきりとさせておきましょう。疾病の撲滅とは、困難で、時間がかかり、粉骨砕身の努力を強いられるものなのです。カレンダーをめくり、日付を丸で囲んで、「ポリオをこの年のこの日までに撲滅しよう」などと言うことはできません。それではまるで、自ら失敗のお膳立てをするようなものです。たとえ着実に前進していたとしても、恣意的に定めた期限を守ることができなければ、挫折を感じてしまうものです。

マイクロソフトで働いていた当時、私は将来を予測することの難しさを学びました。私たちは短期間あまりに多くのことを期待しすぎる一方で、長期的にはあまり期待しない傾向にあります。変化は予定どおりに起こらないのはもちろんですが、誰も予期できないほどあつという間に起こることもあります。

コンピューターがそうでした。何十年もの間、コンピューターを置いているのは大企業か政府ぐらいのものでした。私が10代の頃にやっと、普通の人が机の上でコンピューターを使える時代がいつか来るだろうと、人々は思い始めました。しかし、それが何年までに実現するとまでは予測がつきませんでした。まさか、私が50歳になる前に、大勢の人がポケットの中にコンピューターを持ち歩く時代が来るなど、予想外のことでした。

同じことがポリオとの闘いにも当てはまります。明日ポリオを撲滅する、という人があれば、それは短期的に見て正しくありません。逆に、ポリオを撲滅する日は決して来ない、という人があれば、それは長期的に見て正しくないのです。



いつになるかはわかりませんが、私たちが必ずポリオを撲滅することは確かです。私たちには、そのための長期的な計画と具体策があります。そして、ここにお集まりのロータリアンの皆さまをはじめ、私たちにはやり遂げる意志があります。私は、このことを伝えるために、今日ここに来ました。皆さんとパートナー団体が、ポリオ撲滅の障害を乗り越えられると私が確信している理由をお伝えするためです。

[間]

昨年ポリオに感染した子供の数は、1,618人でした。20年前の数字に比べれば、さほど大きい数ではないように思えます。まあこの程度でよしという考えが、よぎらないでもありません。しかし、現在のこの数字を永遠に維持していくことはできないのです。何十億ドルの資金、無数の保健員、政府高官の献身的な協力、こういったリソースは毎年持続していけるものではないからです。

このポリオ撲滅の厳しい現実に目を向ければ、私たちが年間1,000人ないし2,000人の感染レベルを今後維持していくことが不可能だということは明らかです。撲滅するか、さもなければ年間何十万人という数字に逆戻りするかしかがありません。つまり、選択肢はないのです。疲れたからといって、子供たちを見殺しにするようなことができるでしょうか。ポリオによって命を奪われる子供がいなくなるまで、皆さんと、また、ほかの協力団体とともに闘い抜くこと、これがゲイツ財団の誓いです。

昨年11月、インドを訪れたとき、私はこの恐ろしい病で苦しんでいる子供の姿を目の当たりにしました。

デリー東部のスラム街で、私は生後9カ月になるハシュミンという女の子をこの腕に抱きました。同行していた父と姉とともに、その子の家の庭先で、母親の話を聞きました。ハシュミンは、きれいな明るいオレンジ色のワンピースを着ていました。この子には、なぜ人々が深刻な顔で自分の足を突付いたりしているのかなど、理解できるはずもありませんでした。しかし、ポリオに感染してしまったこの子は、成長しても、ボールを蹴ったり、友達とかくれんぼをしたりして遊ぶことはできないのです。

この女の子を抱きながら、私は、この病を必ず撲滅するのだと思ったのです。

[間]

ポリオの撲滅がこれほど難しいのには、多くの原因があります。まずは、予防接種をしなければならない子供の数の多さ、これだけでも大変なのに、職を求めて転々と渡り歩く親とともに住所の定まらない子供が大勢います。また、山を登り、モンスーン期に氾濫する川を渡らなければたどり着けない遠隔地に住む子供たちや、世界最大の貧民街の雑多に住む子供たちも数多く存在します。

アフガニスタン南部では、戦争のため、予防接種員が子供たちのもとにたどり着くことができません。ナイジェリアでは、ワクチンが安全ではないという間違った知識による恐怖心が広まっており、予防接種の実施がうまくいかない地域もあります。

対象人数があまりに多すぎて、困難を極めることもあります。毎月50万人の子供が生まれるインドのウッタルプラデシュ州が、この例です。ほぼ完璧に近いプログラムが運営されない限り、ウイルスは毎回、どこかで生存し続けることとなります。

科学的な課題もあります。子供がポリオに感染しているかどうかの診断は、非常に難しいのです。天然痘のように、多くの病気は一目でわかるものです。しかし、ポリオの場合は、似た症状のほかの病気でないことを確認するために、便を採取して研究所に送り、検査を行う必要があります。



また、免疫力をつけるために、通常の何倍かのワクチンを接種しなければ、効果の上がない地域もあります。ポリオ撲滅に関わり始めた当初、私はこのことを知りませんでした。ほかの地域でも、アメリカの標準的なワクチン量で十分だと思っていたのです。しかし、さまざまなほかのウイルスに感染している子供たちには、何倍ものワクチンを投与しなければ効き目がなく、最高10回を必要とする場合もあることを知りました。

こういった障害すべてを乗り越えるには、大変な努力が必要です。しかし、その努力を惜しまないポリオ常在国の積極的な姿勢を、私たちは幾度となく見てきました。結果を確信していればこそ、生まれる熱意です。過去20年間にわたるポリオ撲滅活動によって、この結果は実証されてきました。

インドを例に取ってみましょう。国内のポリオ撲滅の基盤体制は、脅威的と言うしかありません。この国では、年に2度、全国予防接種日を実施しています。来月にも予定されていますが、この実施には、専門の保健員からボランティアまで200万人以上の人々が総動員で当たっています。全国の学校、病院、コミュニティセンターなどに80万の予防接種ブースが設置されます。

それが済むと、予防接種担当員が2億戸以上の家を1軒1軒回って歩きます。2億軒です。予防接種を逃す子供が出ないように、確認するためです。移動中の子供も見逃してはならないと、電車の駅やバス停、フェリー乗り場などにも出向き、予防接種を行います。こうしてインドでは、わずか数日間のうちに、1億7,000万人以上の子供が予防接種を受けることになるのです。

それでもまだ十分でない場合があります。私が抱いたハシュミンは、予防接種を受けていたのに、ポリオにかかってしまったケースです。通常のワクチン量では足りない地域に住んでいたためです。

このような問題に出くわしたときこそ、革新的なアイデアの出番です。問題の残された手ごわいわずが一握りの地域で、ポリオを一掃するには新しい解決策が必要です。

この新しいアイデアは、国によってさまざまです。それは、そこに住む人々のニーズに適ったものでなければならぬからです。アイデアは、ただ斬新であればよいというわけではなく、人々の暮らしをより良くしてこそ、役立つものなのです。

ナイジェリアでは、北部の指導者たちとよい関係を築くこと、これが予防接種率、特に始めて予防接種を受ける子供の率をアップさせるための新しいアイデアです。パキスタンでは、予防接種済みの子供の指に印をつけるという、実に簡単な方法が編み出されました。

過去10年間に生まれた革新的なアイデアの一つに、個々のポリオ感染例のウイルスがどこから来たかを解明する遺伝子型決定法があります。この分析を行うと、例えばポリオに感染したアンゴラの子供の便の検査結果から、そのウイルスが遠くインドから来たものであると究明することが可能になります。これは、まさに画期的な方法です。このテクノロジーを使えば、世界中のポリオウイルスの通り道を矢印で正確に表す詳細な地図を描くことができます。この解決方法が生まれなかったなら、ポリオが一体どのようにして伝染していくのかという謎を解くため、私たちはいまだに頭を抱え込んでいたことでしょう。しかし、この方法のおかげで、活動に必要とされる正確な地図と情報を手に入れることができるようになりました。

[間]

このような総合的なキャンペーンを実施するには、強力な政治的意思が必要になります。また、問題解決の方法を改善していくために、どんどん新しいアイデアを打ち出していくのにも、政治的な全面バツ



クアップが必要です。こうした政府の固い決意が紛れもなく存在することを、私はこの目で見てきました。ポリオ撲滅に関して、各国の政府は正しい決断を下してきました。

昨年11月、私はインドの保健省代表と面会したのですが、取り組みに対する彼らの真剣な姿勢には心を打たれました。来月には、ナイジェリアに行って、新しい保健大臣をはじめ、政治家や宗教的指導者に会う予定です。現地で、ロータリーの代表とも会合する予定です。そこから、ポリオが最悪の状態にあるという北部に向かい、この目で状況を確認するつもりです。撲滅が最も難しいとされている州でも、進捗の兆しが見え始めているので、これにさらに弾みをつけるため、ナイジェリアの政府役人にぜひ協力したいと考えています。

もちろん、政治的な意思は、政府の専売特許ではありません。撲滅の陰には、常にロータリアンの意思の力が働いており、これが一番大きな原動力となってきたのです。

デリーでは、ロータリーが主催する募金のための小さな昼食会に出席しましたが、そこではこの活動に対して情熱を抱く多くのロータリアンとお話する機会に恵まれました。この昼食会を主催したビルラ夫人は、今回もポリオ撲滅キャンペーンに100万ドルの誓約を行いました。また、これまでの支援に加えて新たに150万ドルの寄付を申し出た会員、そして今回初めて決意し、25万ドルを寄付した会員もいました。2時間足らずの昼食の席で、命を救うための資金が、これだけ集まったのです。

一つ、はっきり言えることがあります。それは、ロータリーなしに、現在の世界はあり得なかったし、また、ロータリーなしには、世界が行き着くべきところにたどり着くことはできないということです。

皆さんには、さまざまな形で貢献する力があります。

皆さんはボランティアです。世界には100万人以上のロータリアンがいますが、その多くが予防接種を実際に手伝えるために、現地に赴いています。私自身も、皆さんと同じように、一人の子供にワクチンを与える機会をいただきました。子供をポリオから守るためにワクチンを投与する、これは美しい行為です。

誰もがロータリーの素晴らしい仕事に直接参加して、同じような感動を味わうべきだと思います。ロータリアンがわざわざ現地に赴くことは、予防接種という尊い仕事を成すためだけでなく、直接参加することで自分が持つ影響力を真に理解するためにも、極めて大切なのです。

一生懸命活動して、その成果を実感できたとき、人はますますやる気が湧いてきます。そしてもっと大きな実りを目指して、もっともっと頑張ろうと思うのです。

皆さんは、また、提唱者でもあります。ロータリアンが口を開くと、皆が耳を傾けます。ですから、皆さんは固い政治的意思を育むことができるのです。ドナー国にお住まいであれば、ポリオを対外援助の優先事項に掲げるよう、政府に働きかけることができます。アメリカ合衆国とヨーロッパ全土を通じて、ロータリアンは、ポリオの闘いのための資金確保の主戦力となってきました。

ポリオ常在国にお住まいの方は、国内のリーダーとともにポリオ・キャンペーンに協力することができます。私がポリオ関連の重要な会合に出席する際には、ロータリーの代表者が必ず同席しています。このような会合を開かなくて済む日が来るまで、皆さんは出席し続けなければなりません。

そして、皆さんは寄付者でもあります。

世界中の何十万人ものロータリアンが、この闘いに寄付を寄せてきました。そのお金は、撲滅に毎日必要とされる費用に充てられています。



その活動を助けるため、ご存知のように、私たちは1年前、1億ドルの補助金を授与いたしました。これに上乗せする1億ドルを、皆さんが必ず集めてくださると確信しています。今、私たちは正念場を迎えています。今、私たちには、病を撲滅するチャンスが到来しています。天然痘の撲滅以来、史上2度目のチャンスです。

[間]

ここで、発表させていただきたいことがあります。私たちは、ポリオ撲滅への決意を、また、ロータリーへの信頼をさらに倍増することにしました。私たちは、新たに2億5,500万ドルの補助金をロータリーに授与し、総額3億5,500万ドルを提供することを誓約いたします。この新たな補助金により、皆さんの1億ドルのチャレンジはなくなり、2億ドルのチャレンジが生まれます。

ゲイツ財団とロータリー以外に、もうひとつ発表したいことがあります。ドイツ政府と英国政府が、ポリオ撲滅に向けて、さらに2億8,000万ドルの寄付を誓約したことをここにお伝えします。

皆さんが、今、なし遂げたことを、ちょっと考えてみてください。25年間に及ぶポリオ撲滅への皆さんの熱意が、この病との闘いの終盤に全力で立ち向かうために必要な6億ドル以上の資金をもたらしたのです。

[間]

撲滅が一夜にして実現しないことを踏まえて、私たちはこの補助金を授与すると同時に、皆さんに、2012年6月30日までに合計2億ドルを調達することをお願いしたいと思います。古代エジプトの時代から子供たちの命を奪い、その身体に障害をもたらしてきたこの病気を撲滅することが、どんなに困難な課題であるか、私たちは知っています。この子が最後の感染者だと言い切れる日をいつ迎えられるかは、わかりません。

しかし、ポリオを葬り去るためのワクチンは揃っています。各国政府も、そのための手段を提供する構えを見せています。あとは、この活動を完遂するだけの粘り強さがあれば、私たちは必ず、ポリオを撲滅できるでしょう。

ご静聴ありがとうございました。

